

推薦調書（実装部門）（注1）

表彰区分	町・村	推薦都道府県	大阪府
地方公共団体名	豊能町		
取組名称	コンパクトスマートシティ実現に向けた公民連携による取り組み		
連携自治体、企業、団体等	一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会		
デジタルを活用した取組の概要（デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）（注2）	②	（左記が①の場合の分野）
	<p>【デジタルを活用した取組の全体概要】</p> <p>○一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会実証フィールドとして豊能町にて少子高齢化が加速する街を改善できれば、日本各地の類似課題を抱える自治体への支援に繋がる。高齢者・子どもを中心に見守り、ヘルスケア、移動など公民連携して課題解決に取り組める環境の構築を目指す。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○令和2年8月に、大阪スマートシティパートナーズフォーラムに加入し、市町村が抱える地域・社会課題の解決に向け「スマートシティ」などの実証・実装に向けた取り組みを進めていく中、一般社団法人コンパクトスマートシティプラットフォーム協議会が主体となり自治体版スマートシティアプリを活用したスマートシティサービスによる地域活性化の取り組みを進めることとなった。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○少子高齢化が進む中、地域課題解決に向け、スマートフォン地域アプリ「とよのんコンシェルジュ」を活用し、健康データや日常生活の記録など共有し、買い物代行や移動手段の手配、見守りなどのサービスが受けられるように、住民のQOL向上を目指す。</p> <p>◆実装したサービス とよのんコンシェルジュ、手続きナビ、見守りカメラ、テレビプッシュヘルスケア（スマートバンド）</p> <p>◆実装を予定しているサービス 地域通貨、モビリティ（AI オンデマンド）、見守り</p> <p>実装していくために、デジタルインフラによるIT弱者の解消環境整備及び教育のために、町民向け「スマートフォン教室」等を行い、デジタルデバイドの解消を図った。</p>		
デジタルを活用した取組による成果（成果がわ	<p><とよのんコンシェルジュ></p> <p>登録者数：約900人</p>		

<p>かるデータ・数 値)</p>	<p><スマホ（スマートフォン）教室></p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回目：2021年12月開催（13回） 参加者数：延べ 67名 ○第2回目：2022年1月開催（13回） 参加者数：延べ 113名 ○第3回目：2022年2月開催（11回） 参加者数：延べ 94名 <p style="text-align: right;">合計参加者数：延べ 274名</p> <p><よろず相談所></p> <p>毎週月曜日及び土曜日 9時～12時 開館</p> <p>1日平均：10名来場（多い日は2時間で40名来場）</p> <p><アンケート結果></p> <p>○第1回アンケート</p> <p>Q28：スマートシティなんでも相談室（スマホがわからない、スマートシティサービスの使い方など色々と相談に乗ります）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用したい…59.6%（240名回答のうち143名） ・利用しない…15.4%（240名回答のうち37名） ・わからない…20.0%（240名回答のうち48名） ・未回答…5.0%（240名回答のうち12名） <hr/> <p>○第2回アンケート</p> <p>Q8：教育（スマホ教室、学校ツールなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要…80.5%（185名回答のうち136名） ・不要…18.9%（185名回答のうち35名） ・未回答…0.5%（185名回答のうち1名） <p>Q16：スマホ教室の「難易度」はいかがですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい…73.5%（185名回答のうち136名） ・難しい…19.5%（185名回答のうち36名） ・未回答…5.0%（185名回答のうち9名） <p>Q17：スマホやスマートシティ関連のことで困ったら聞ける場所「よろず相談室」は必要ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欲しい…86.5%（185名回答のうち160名） ・いらぬ…8.6%（185名回答のうち17名） ・未回答…4.9%（185名回答のうち9名） <hr/> <p>○第3回アンケート</p> <p>Q16：スマホ教室を受講したい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用したい…86.3%（80名回答のうち69名） ・利用しない…13.8%（80名回答のうち11名） <p>Q17：スマホの使い方を知りたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用したい…85.0%（80名回答のうち68名） ・利用しない…15.0%（80名回答のうち12名）
-----------------------	---

<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<p>スマホに慣れていただく取り組みとして、高齢者を対象にウォーキングアプリを活用した健康事業や、避難訓練を実施し、避難経路や避難所の情報が早くアプリに表示されるなど、住民の安全安心に繋がった。</p> <p>「スマホ教室」開催時には、各企業からプレゼンも盛り込み、豊能町スマートシティの取り組みを、広く住民に周知することができた。併せて、教室内で、地域通貨やキャッシュレス体験をデモ機で行い、よりリアルな買い物シーン等を想定した体験会となった。</p> <p>スマホ教室が終了した後も、スマホで分からないことや、スマートシティ事業に関する窓口として「よろず相談所」を開設。平均して毎回10名ほどの来場者があり、スマホやスマートシティへの関心が高まった。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>スマホ教室受講者アンケート結果や「よろず相談所」での相談内容等を踏まえ、「住民のQOLを底上げする事業」として、引き続き「スマホ教室」等を実施していく予定。</p> <p>併せて、「とよのんコンシェルジュ」アプリを活用したサービスを、住民ニーズも取り入れながら、公民連携による地域課題に取り組み、住民のQOL向上を目指す。また、各自治体にも横展開し、誰一人取り残されないためのプラットフォーム作りに寄与する。</p> <p>住民のニーズを把握しながら、企業の醸成を図り、住民と一緒に作っていくスマートシティを目指す。</p>

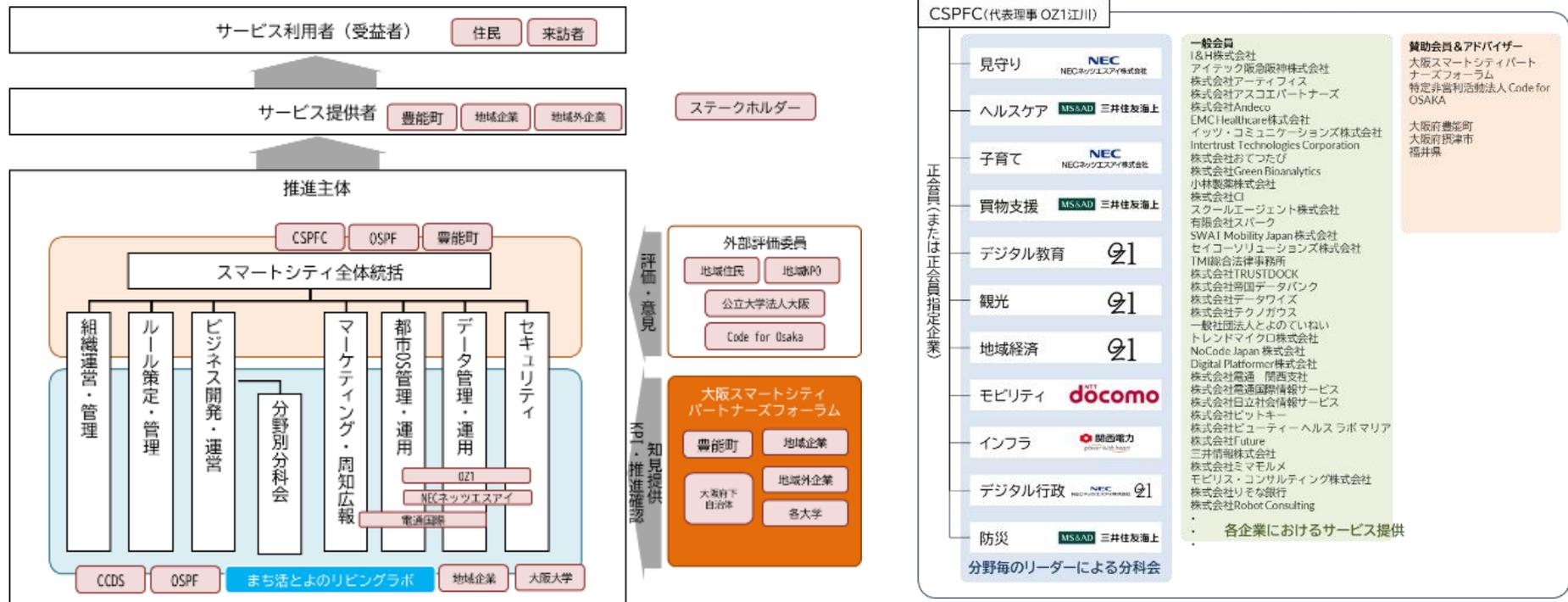
注1： 行や列の追加は行わないでください。行や列を拡大していただくのは差し支えありませんが、最大2ページの内で作成をお願いします。

注2： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① 域内市町村の取組で、デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。
(・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災)
- ② 域内市町村の取組で、高齢者、障害者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。

「スマートシティ実現に向けたデジタルインフラによる IT 弱者の解消環境整備及び教育」 概要図

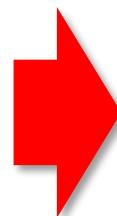
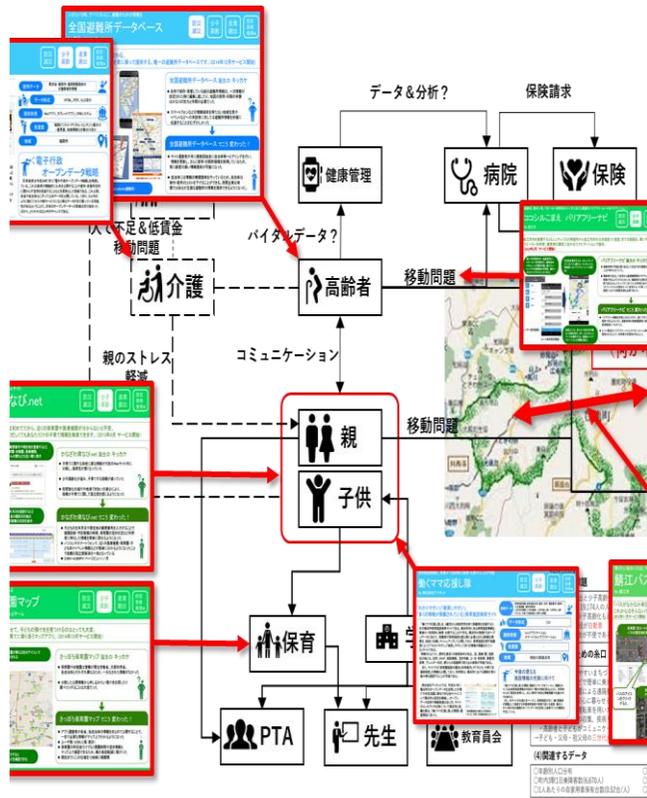
「豊能町コンパクトスマートシティパーク」 実施体系図



誰でも簡単にスマートシティサービスを選べるスマートシティアプリ “とよのんコンシェルジュ”

課題解決するアプリが増えると・・・

とよのんコンシェルジュが解決！



IT 基盤がとても重要

“とよのんコンシェルジュ”を中心にした自治体、企業、住民みなで育てるスマートシティ

防災・避難訓練

ポイントポイントで進められる防災訓練や避難訓練に、1人1人違う役割を演じる

みんなの声で変わる！
スマートシティ
プロジェクト 豊能町



とよのんコンシェルジュ概要



キャッシュレス

(1) QRコード決済
(2) QRコード決済履歴

モビリティ

移動サービス

- 電動キックボード (体験してみよう)
- 自転車を借りる
- オンデマンドバスとは? (検討中)
- タクシーを呼ぶ

住みやすい街づくりのためのアプリだよ!

お知らせやサービスを一括確認できるよ!

イベント管理や予定も入力＆ラック!

説明

✓ このアプリひとつで様々な機能やアプリに繋がる

ダウンロードはここから
スマホカメラでクリックしてね

ヘルスケア

総歩数
457956 歩

今日の歩数

4582歩 0.23km 12分

スマートホンで、みなさんの生活を支援するサービスが始まります

観光

おてつたび 豊能町

お手伝いしながらの旅で
困りごとを解決
町の魅力を再発見しよう!

データ連携基盤

連携は、データのアクセスログ管理

①データを利用する企業
②データを利用/提供/連携する企業

コネクタ型 最短2時間インストール

見守り

“とよのんコンシェルジュ”（データ連携型スマシアプリ）概要



とよのんコンシェルジュ概要



説明

✓ このアプリひとつで様々な機能やアプリに繋がる

ダウンロードはここから
スマホカメラでクリックしてね



スマートホンで、みなさんの生活を支援するサービスが始まります



高齢化の課題 スマートシティで解決 大阪府豊能町
地域のチカラ 君のイノベーション

2022/2/28 5:00 | 日本経済新聞 電子版



高齢者がスマートフォンを片手に、タクシーの配車や買い物サービスを自由自在に使いこなす一コマ。町民のおよそ2人に1人が高齢者の大阪府豊能町で、少子高齢化による社会課題をスマホアプリで解決する試みが始まる。人口減少が続く活気を、IT（情報技術）を活用した「スマートシティ」で取り戻す狙いだ。

豊能町が導入するのは独自のスマホアプリ「とよのんコンシェルジュ」。町民一人ひとりがメールアドレスやパスワードを設定して個別のアカウントを作成してアプリにログインすると、町内で活用できる様々なサービスがまとめて確認できる。2021年度中にアプリを完成させる予定だ。



例えば「移動」というボタンをタップすれば、「タクシーを呼ぶ」「自転車を借りる」などの選択項目が現れ、タクシー配車やシェアサイクルなど自分に必要なサービスが簡単に利用できるようになる。「健康」の分野では、1日の歩数を確認できたり、高齢者が自身の体調管理ができるようになったりすることを想定している。

アプリの開発は、約40社で組織する協議会が担っている。交通や介護事業、子どもの見守りサービスなど様々な分野の企業が協議会のメンバーとなっており、提供するサービスを一つのアプリにまとめることで、町民が簡単に求めるサービスとつながることができる。

「とよのんコンシェルジュ」が想定するサービスの例

分野	内容
移動	タクシーの配車サービス 電動自転車の貸し出しサービス
健康	高齢者の日々の健康状態を管理
買い物	買い物代行や移動販売の案内 地域通貨のキャッシュレス決済
子育て	育児代行サービスの予約
教育	学校行事の予定確認

少子高齢化は全国各地で多くの自治体が抱える課題だ。20年の高齢調査によると、豊能町は65歳以上の比率が全人口の47.5%で、府内の市町村で最も高齢化率が高い。人口の流出も続いており、ピーク時には約2万7千人だった人口は約1万8千人まで減った。

協議会の江川将徳代表理事は「豊能町がモデル都市となり成功すれば、他の自治体でも実践できる」と意気込む。



アプリは日々進化し続けます

4月15日に大型アップデート完了

R3 総務省&国土交通省での採択内容

事業費：3.2億円

■ 事業のセールスポイント

IT人材不足・予算不足の自治体でも無料や低額でスマートシティをスタートできるコンパクトスマートシティプラットフォーム（CSPF）の実装・実証を行い、全国で住民のQoLの向上及び地方創生を目指す自治体を支援するプロジェクトです。**基本となるCSPFは自治体に無償**で提供されます。
(現在30社60サービス以上から自治体がサービスを選ぶだけで住民サービスが直ぐに始められるプラットフォーム。選択後も変更・拡張可能)



■ 本事業全体の概要

CSPF実証フィールドとして豊能町にて少子高齢化が加速する街を改善できれば、日本各地の類似課題を抱える自治体への支援に繋がる。高齢者・子どもを中心に見守り、ヘルスケア、移動など公民連携して課題解決に取り組める環境の構築を目指す。

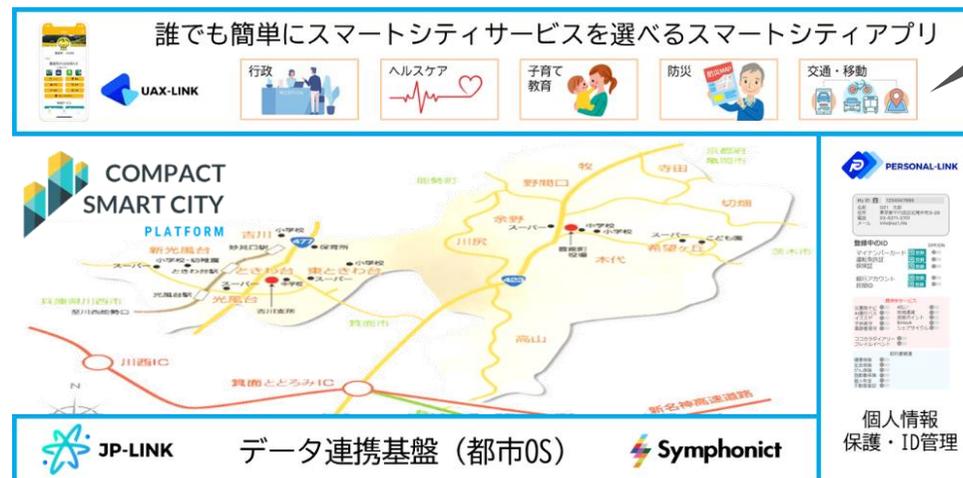
サービスは
企業から提供

■ 対象区域の概要

光風台地区
67.5ha
2049世帯(4353人)

■ 対象区域のビジョン

リトルエストニア（北欧のフィンランドやエストニアのデジタルサービスとゆとりある生活文化を取り込み住民QoL向上を目指す。）



基本のプラットフォームを
自治体に
無償提供

R4 デジタル田園都市国家構想推進交付金の活用を検討

デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ概要）

<令和3年度補正一般会計 20,000百万円の内数>

目的

- デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援。

概要

デジタル化を活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、

- データ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組（TYPE 2・3）
- 他の地域等で既に確立されている優良モデル・サービスを活用した実装の取組（TYPE1）

を行う地方公共団体に対し、その事業の立ち上げに必要なハード/ソフト経費を支援。

詳細

<TYPE別の内容>



※申請上限数：都道府県 9事業 市町村 5事業

〇要件（TYPE共通）

- デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む
- コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係と連携し、事業を実行的、継続的に推進するための体制の確立

※TYPE 2・3については、官民および民間事業者間での相互連携性の確保など、デジタル原則への準拠を求める。

<対象事業の例>



<中長期的取組>

事例の採択・フォローアップや好事例の情報発信により、地域のデジタル実装を強力に支援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進。



効果

意欲ある地域における地域の課題解決や魅力向上に向けた先導的なデジタル実装の取組を支援し、地方から国全体へのボトムアップの成長を実現することにより、デジタル田園都市国家構想を推進。デジタルの実装に取り組む地方公共団体：1000団体（2024年度末）を目指す。